

# 乳児期・小児期の腸内細菌叢とヒトの健康

近年、次世代シーケンサーを用いた解析技術の進展により、腸内細菌叢の構成が健康状態に大きく影響することが明らかとなり、腸内環境を整えるための食習慣の重要性が明確になってきています。

今回の研究会では、乳幼児の健康に重要なビフィズス菌とヒトの密接な共生系について紹介します。

また、周産期から乳幼児期、学童期に至る小児期の食習慣と腸内細菌叢、健康との関連について解説します。本研究会が、子供の健康促進に貢献する取り組み、ビジネス創出につながることを期待します。

## ◆ 講演

### (1) 「乳児期にて特異的に見られる腸内細菌とヒトの共生」

講師： 阪中 幹祥 氏 龍谷大学 農学部 生命科学科 准教授

講演概要： 一般に、母乳栄養児の腸内では、ビフィズス菌が優勢な腸内細菌叢が形成され、宿主であるヒトに対して保健効果をもたらしていることが知られています。これまでの研究で我々は「ビフィズス菌優勢な細菌叢形成と本菌がもたらす保健効果発揮」には、母乳に含まれる特定の成分が鍵を握ることを見出してきました。本講演では、我々の研究成果を交えながら、近年分かってきた、母乳成分を介したビフィズス菌とヒトの密接な共生系について紹介します。

### (2) 「周産期から学童期にかけての食習慣・腸内細菌と子どもの健康」

講師： 楠 隆 氏 龍谷大学 農学部 食品栄養学科 教授

講演概要： 近年、野菜摂取を中心とした食習慣は腸内環境を整え、アレルギー疾患の改善・予防など小児の健康に好ましい影響を及ぼす可能性が示されています。本講演では、周産期から乳幼児期、学童期に至る小児期の食習慣と腸内細菌叢、健康との関連について概説するとともに、当研究室で取り組んでいる学童期の野菜摂取とアレルギー症状との関連を明らかにする縦断研究の概要および途中経過を紹介し、「食—腸内細菌—健康」の相互関係について考察します。

日 時： 2026年3月2日(月) 15:00~17:30

会 場： 龍谷大学瀬田キャンパス REC ホール  
(対面+ Web) ハイブリッド開催

参加費： 無料

主 催： 龍谷大学 龍谷エクステンションセンター (REC)  
公益財団法人 りそな中小企業振興財団